

信州昆虫資料館報

No.14

2017. 4



目次

今年のスケジュール	……………	p 2
「舞姫よ 永遠に！」最後の章より抜粋	……………	p 3
ご挨拶	村長 北村政夫	…………… p 4
ご挨拶	名誉館長 小川原辰雄	…………… p 5
「舞姫よ 永遠に！」展	館長 野原未知	…………… p 6
2016年を振り返って	……………	p 8
編集後記		



春のオープン

4月22日(土)10時



白いカタクリとヒメギフチョウ 撮影 向川靖彦（青木村当郷にて）

- ★休館・火曜日 10:00～17:00（11月は16:00）★5月連休は無休
- ★入館料高校生以上300円 中学生以下無料
- ★各企画について、詳細はお問い合わせ下さい（0268-37-3988・fax37-3964）

追悼・鳩山邦夫さん
「舞姫よ永遠に！」展

4月29日(土)～8月20日(日)

オープニングレセプション・4月29日(土) PM3:00～



1994.7. 17 長野県川上村にて



1996. 8.14 長野県小海町にて





今年のスケジュール

5月14日(日)

5月

「風穴ハイキングと自然観察会」
(村松風穴と子檀嶺岳岩場)

9時半 当館集合 車に乗りあわせて子檀嶺岳の麓まで行き、徒歩で森の中を歩きます。お昼をご持参下さい。郷土史家沓掛貞人さんが同行。下山した後、希望者で沓掛の風穴を見学。

6月中

6月

「春蚕の飼育」(ロビー)
・お手伝い随時募集中

小さな卵から孵化した幼虫が、桑の葉を食べながらどんどん大きくなります

桑葉をお土産にご持参いただけると助かります。

6月21日鳩山さん一周忌…当日は入場無料です。

7月

7月29日(土) 夜間昆虫観察会

日没～ 平成28年6月現在544種の蛾類



セミの羽化を見まもる子供たち

を確認されています。静かな森の中に小さなものたちが、ちゃあんと生きています。新しい蛾を見つけた人の名前が学会誌「まつむし」にデータと共に掲載されています。要懐中電灯カメラ上着など

8月6日(日)

8月

フォルクローレ野外コンサート
バルデオスクーロ・イ・ブランコ

午後4時～ 当館芝草の庭で。要・座シート・クッション・飲み物・上着など。すっかりお馴染みのグ



♪コンドルは飛んでいく・花まつり等
お馴染みの曲が次々。



くつろぎながら楽しむ皆さん

ループによる、イブニングコンサート♪今年もさわやかな風と緑の中で♪

8月11日(金)

繭から糸を採ってみましょう。

座繰り機体験と真綿遊び

繊細な白い絹糸がスルスルと巻き取られる様子里ドキドキ。繭の香りが漂い、不思議な時間が流れます。



9月17日(日) 午後1時～

9月

小川原先生の恒例ハチ講座とコンサート



養老先生 早野健さん
小川原先生 当館にて(鎌倉蝶話会)

ハチ博士、小川原ドクターの話や年に一度聴講すると刺されない! 唄の丸川尚子さん・

ピアノのコルナ知子さんが今年も素敵な音楽を奏でてくださいます。

10月

10月1日(日) 午前10時～12時

鎌倉蝶話会の皆さんと遊ぼう!

かつての磐瀬太郎氏に集まったメンバーの鎌倉蝶話会のみなさん、今も虫と戯れておられます。当館周辺を一緒に遊みましょう!

11月

11月26日(日)

森に人にありがとう!会

午前8時点火 雨天時は12月3日(日) 参加自由

枯れ木枯草燃やして焼き芋大会…サツマイモ、ジャガイモなどお持ちください。

鳩山邦夫さん「舞姫よ 永遠に！」最後の章

—死ぬまで、軽井沢のチョウを見つめていたい—より抜粋



ほら！！（鳩山邦夫さん）

愛蝶家としての私が浅間山麓や軽井沢のチョウたちについて思いをめぐらせるとき、思い出はとめどなくあふれ出るといった感じになり、平凡な言葉で言えばチョウたちが走馬灯のように頭の中を飛び回り收拾がつかないのである。私も65歳という老境にさしかかっているだけに、少年時代や青春時代、それに子育てに忙しかった30歳代、40歳代のことをやたらに思い出す昨今である。昔、ネット片手に歩き回った草原に別荘が立ち並び、ゼフィルス豊産の森の消えいく姿に涙を禁じ得ないのも事実だ。もう、これ以上の開発は止めてほしい、自然との共生が大事だ、痛切にそう願う。

軽井沢の蝶を考えれば、第一に別荘の庭を舞った佳チョウたちに思いが及ぶ。ウラギンシジミやダイセンシジミ、それにカラスシジミやゴマシジミ、ヒメヒカゲの姿がちらついてくる。夕刻や台風接近で風の強いとき、必ずのように、芝生に降りてくるムモンアカシジミにはその色彩の故、強烈なインパクトを感じていた。6年ほど前の夏の早朝、なんとはなしに庭に出てみたところ、足元からダイセンの美しい個体が飛び立ち樹冠へと昇っていった。

「いた、まだいたんだ」と思い、空白と風雪の40年、よく耐えて生をつないでくれていたと、大興奮した。

チョウはかよわい生き物だと見られがちだが、実はしたたかでたくましい存在でもあることに気付くのはそんなときである。絶滅してしまったかと思っていると何年かに一度、赤い花びらが散って降りてくる。ムモンアカシジミもわが別荘の庭でひそかに世代交代を続けているようだ。そうしたチョウたちのたくましさを知っているが故にヒメヒカゲやゴマシジミも、軽井沢町内のどこかで、ひそかに息付ているような気がしてならないのである。

今でもときどきキベリタテハに会いに行く。長野、群馬県境に赴けば豊産な年には20も30ものキベリに会える。ネットは出すが乱獲は絶対にしない。キベリタテハは大切にしなければならぬチョウだからだ。小学校二年の夏に、軽井沢の水道水源地でとらえた一頭のキベリタテハが私の人生を変えた。両親に自慢し、蝶屋だった伯父にほめられ、生まれて初めて有頂天という心境を知った。それから蝶に対する強い思い入れが生じ、青春の約十年を除き、生涯チョウたちを追い、研究し、海外にまで足を伸ばし一年中チョウを飼育する生活に入っていった。あの里下りと思われる一頭のキベリタテハは運命の蝶であった。

そして、それは我が人生に美しい彩りを加えてくれたという意味で、天から私に与えられた運命の女神であったといえる。私は人生を閉じるその瞬間まで、浅間山麓とそのチョウたちに熱い視線を送り続けていきたいと思う。できうならば、私の視線を受けとめてくれるチョウたちが一種類でも多く残っていることを願って・・・。

(2014. 4.30発行 浅間山麓と東信の蝶)

信州・青木村の文化施設「信州昆虫資料館」

青木村長 北村政夫

信州昆虫資料館は、青木三山のひとつ十観山の中腹に位置し、平成15年のオープン以来昆虫愛好家の皆さまは元より訪れる多くの人々を楽しませています。

かつて、農協関係の温泉保養施設だった建物はその周りの景観も含めて、自然の中の昆虫ワールドへと変身を遂げました。館には、青木村名誉村民であり青木診療所長である小川原辰雄先生が10代の前半から興味を持って蒐集されてきた昆虫図鑑や昆虫雑誌、図書、文献論文など4000点あまりが手に取って見られる図書コーナーがあります。また、さまざまな昆虫仲間から寄贈された昆虫標本は28000点に及び展示されております。

そのすべてを小川原先生のご芳志によりご寄贈頂きましたことから、平成28年4月から村営として運営を行っております。村営と申しまして基本的には何も変わることなく、今後も先生の「人虫共棲」のコンセプトをモットーに、学術的な研究の場、子供たちの学びの場など様々な顔を持った資料館として、来館者の皆さまをお迎えしてまいります。

また本年から小川原先生には名誉館長になって頂き、長年代理を務めてきた野原さんには館長として

頑張ってもらっております。

十観山はその名の通り十方向を一望でき北アルプス・南アルプス・北信五岳・浅間山など360度の素晴らしい眺望を楽しめます。山頂近くにパイオトイレがあり、初心者にも登りやすく親しみやすい山です。8合目にはパラグライダーの離陸地点もあり、横手キャンプ場も備わっております。山の麓には1300年前から湧きたつ温泉、「子宝の湯」とも呼ばれる田沢温泉もあり、一帯老若男女が楽しめる観光エリアでもあります。

信州昆虫資料館は、毎年4月中旬春のオープンと同時に企画展を開催し、養蚕、小川原先生のハチ講座、昼夜の自然観察会、講演会、コンサートなど多彩に活動しており、11月いっぱいまで来館者をお迎えしています。

また本年は、昨年亡くなられた鳩山邦夫さんの追悼展を開かせて頂くことになりました。というのも、1昨年「信州浅間山麓と東信の蝶」を信州昆虫資料館で発行しており、その本は鳩山邦夫先生と、我が村の小川原辰雄先生が共著です。そのようなご縁で昆虫仲間の皆さんの多大なるご協力を戴き、この春から追悼展が実現できることに心より御礼を申し上げます。

なお、28年度から「道の駅あおき」の改修工事が始まっており、29年4月28日にグランドオープンになります。本年度建設予定の情報館の一角に昆虫資料館のコーナーを設ける予定となっております。

青木村に多くの皆さまがお越しください、楽しんで頂けるように願っております。村民の皆さんもPRをよろしくお願いいたします。



青木保育園 夏の遠足・庭でおいしいお昼ご飯です

信州昆虫資料館；回顧と展望

名誉館長 小川原辰雄

旧制松本中学（現松本深志高校）一年生の時、当時深志城下大名町にあった明倫堂書店でふと手に取り購入した岩波文庫版のファーブルの「昆虫記」を一読して以来昆虫類の生態に明徴し難い興味を感じて来た。中学時代は博物会というクラブに所属して昆虫採集を行っていたが、何時しか標本を集めることよりも昆虫に関する図書を集めることに興味が移って行った。爾来県内の同好者と文通することに依って標本も少しずつ増えたが、図書の数もまた次第に増えていった。内科医となつてからは採集に向く余裕もなかったが図書の数は何時しかかなりの数になっていた。

2003年十観山中腹の広大な敷地に立つ村内の遊休施設の再利用が問題になったとき、中学以来の図書文献類や標本の公開展示を思い立ち昆虫資料館の開設に至った次第である。

館名を昆虫館とせず資料館の三文字を加えたことは他でもない標本もさることながら資料文献に力を入れたことに依る。この名称は開設時に顧問をお願いした安藤裕筑波大学名誉教授の発想に負うところが大きい。

以来同好者や研究者からの貴重な文献標本の寄贈を受けると共に内容の充実を図り講演会・野外観察会等を計画実施してきたところである。一般の閲覧者のみならず研究者の来館は多く、各大学の生物関係の皆さんもよくご来館頂いて来た。

2000年にノーベル化学賞を受賞された白川英樹博士は、ここ数年ソニー教育財団ゆめ科学教室のため村にお越しになり、その折にはご来館頂いていた。また、鎌倉蝶話会の会員は隔年当館に於いて会合を持たれ、その際には著名な解剖学者であり文筆家でもある養老孟司東大名誉教授も会員の一人としてご来館頂いている。

本年4月29日からは、昨年惜しくも急逝された鳩山邦夫元大臣のチョウ類研究者としての業績を偲ぶ鳩山邦夫氏追悼展が、鳩山令夫人エミリー様の御同意を得て当館にて開催される予定になっている。本年2月16日に信州大学繊維学部と青木村との連携に関する協定締結調印式が役場会議室に於いて挙行されたが、このことにより八木誠政、小山長雄教授等に依る長い昆虫学の伝統に培われた繊維学部と当館との連携も一層強固なものになることが期待される。

昆虫の面白さは変態することが出来る等の生物多様性にあるが、人間にとって食物連鎖を支えていること、蜂蜜や生糸の生産者であることだけではない。医療面においても重篤な感染症の媒介者でもあることばかりが強調されて来たが、今や衛生昆虫学的な観点ばかりでなく痛くない注射針の開発やヤママユ蛾の休眠からヒントを得た癌細胞を眠らせるといった発想に到るまで興味ある展開が予想されている。

さて開設12年も経て、後継者無き館の将来に想いを馳せるとき一抹の不安を拭いきれなかった。そんなある日北村政夫村長さんにご相談したところ、思いがけぬご理解を戴き、更に村議会全員のご賛同も頂き、標本28000点余りと昆虫図書文献等5000点



八チの講演会でお話される小川原辰雄氏

余り、その他設備の一切を村に寄贈し、以後は青木村営信州昆虫資料館として存続するようご配慮を頂いた。

館周辺の山櫻も満開になった昨年の4月20日、北村村長様、小林村議会議長様はじめご来賓各位参列のもとにオープニングセレモニーが挙行され、村営への移行が正式に決定した次第である。この機会に関係各位のご高配に対してあらためて深く感謝の意

を表したい。

また2003年の開設以来、長きにわたり昆虫資料館を守っていただいた野原未知さん、2012年から資料の管理に心血を注いでいる大川心一さんに、この場を借りて感謝の意を表したい。

これからは村の文化施設として広く発信して頂き益々発展してゆくことを、心から祈念している。

(2017. 2. 28記)

追悼鳩山邦夫さん「舞姫よ 永遠に」展

館長 野原未知

鳩山邦夫さんと蝶が結びつかない人も多いかと思えます。

知る人ぞ知るとしたら、それはやはり蝶の虜になってしまった少年達に違いありません。少年たちは年を重ねました。振り返るとそこに、憧れ希求し駆け回った挙句の宝物や愛用の道具、野帳に展翅版にドイツ箱が、山と積まれているのでしょう。

「舞姫よ 永遠に！」魂の声を残して、鳩山さんは2016年6月21日逝ってしまわれました。「信州浅間山麓と東信の蝶」は2014年4月に鳩山邦夫さん・小川原辰雄さん共著で誕生しました。編集したのはチョウの写真家栗田貞多男さん、田下昌志さん・福本匡志さんら蝶の愛好仲間の皆さま。刊行委員会は鳩山さんを顧問に、委員長を小川原辰雄氏、上記3名のほかに海野和男さん、大塚孝一さん、清水敏道さん、長岡勝さん、中沢勝仁さん。データ提供者、及び文献による記録協力者は県内75名のお力を頂いております。

冒頭に日本昆虫協会長野支部長の茅野實さんより次の祝辞の言葉（抜粋）を載いております。

「人間は何千万種という生物の生命連鎖の一員であり、他の生き物を食べ共生している。この共生の

大切さを忘れ、まだ大丈夫と高を括り、物慾と権力慾に駆り立てられて暴走している。我々は、生命の不思議さ荘厳さを伝え、共生の大切さ人間の賢さを取り戻す活動をしよう。本書は、この生命の不思議さ荘厳さを垣間見るための、小さくも透明度の高い窓」と。

鳩山邦夫さんは昭和23年（1948）生まれ。東京大学法学部卒、6歳より蝶に目覚め、小・中・高校時代は軽井沢の別荘で夏を過ごされ蝶の研究を深めていきました。昭和51年より文部、労働、法務、総務各大臣を歴任し、ロシア協会会長を務められたとのこと。

シジミチョウ科の飼育は専門家そのもので、自宅の庭で卵から幼虫、蛹、成虫になるまで飼育研究されました。その標本を、今回初披露して頂きます。

著書に「われら無党派」（荒地出版1977）、「幸せづくり新労働三法の成立」（労働行政研究所1995）、「蝶飼う日々」（講談社1996）[環境党宣言]（河出書房新書2003）、「地球に恩返しする本」（ポプラ社2006）、「グループホーム入門－介護サービスの革命」（リヨン社1999）、「環境党宣言」（河出書房新書2003）、小川原辰雄氏と共著「浅間山麓と東信の蝶」（クリエイティブセンター・2014）など。



「浅間山麓と東信の蝶」のお蔭で、初めて鳩山さんの蝶に対する深い想いを知り、県内の多くの研究、愛好家にも造詣を深めた次第ですが、そうこうしている内に一度もお会いすることもないまま、突然の訃報が舞い込みました。

栃木県の新部公亮さん（当館で文学者と蝶・神話や星座と蝶などの展覧会を開催）が連絡をくださり、追悼展をしようと発案されました。村の関係者とも話し、虚心坦懐にご夫人お便りしましたところ直ぐ「主人は本当に蝶が好きでした。主人も喜びます」と、ご快諾戴きました。

ご夫人エミリー様には心より感謝申し上げます。

「自然との共生」「ビオトープ構想」を基軸としていた鳩山さん、「お年寄りも子供も自然に親しめるよう、100年後の子供たちのために自然を守ろう」と積極的に強く提唱されていました。この姿勢は地球・人類の緊急課題になっていることですが、とても早い段階から強く訴え行動されていたことを知ったのは、残念ながら亡くなられてからでした。

夫人のご快諾を頂き、日本昆虫協会長野支部（同時に東信の蝶刊行委員会のメンバーでもある）の1月の会合で、「舞姫よ 永遠に！」展のご協力要請をいたしました。

また、2月に入って同長野支部事務局でもある栗田貞多男さん、発案者新部公亮さんと共にご夫人にお会いし、春からの追悼展への旅が始まりました。

会場は「舞姫よ 永遠に！」に載っている、鳩山さん制作の繊細で美しいチョウたちの標本を中心

に、「浅間山麓と東信の蝶」刊行委員会の制作品、虫仲間の皆さんからの色紙や、新部公亮さん制作の作品展、さらに「当館サポーターの皆さまによるひとり一点作品展」などで全館哀悼の空間になります。

共著者小川原辰雄氏は本書で「地球温暖化の影響は無視できまい。これら蝶類の子孫たちは果たして何時まで生き継ぐことが出来るのであろうか？」と危惧しておられます。診療の日々でフィールドに出る姿は見られなかったですが、各紙、各昆虫雑誌、昆虫関係の本は常に目を通されており、自然環境の変化を嘆いておられます。

青木村は、上田市から西に真っ直ぐ伸びる143号線がいよいよ山に入っていく入口の村で、三つの里山に見守られるようにに在る穏やかな里です。飛鳥時代から湧き出る温泉場が二つ、村人や旅の人を癒します。中信地方と東信地方の間に滝山連山がそびえ、いにしえの東山道が保福寺峠を越え、都との往来を可能にしてきました。地球をいつまでも楽しみ子らに残すために、さらに分野を越えて手を繋ぐ時代を迎えていると思っています。100年先を考えていた鳩山邦夫さんの展覧会が、そのためのきっかけになれば幸いです。

なお、村営になって2年目の春を迎えようとしております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(3.30)

2016年の行事を振り返って

4月20日 9:30～10:00.....

青木村営オープンセレモニー

昆虫資料館は、2016年4月から村営になりました。村では正面玄関にセレモニーの準備を設置し、各位のご祝辞を戴きました。テープカットは北村政夫村長、小川原辰雄氏、小林和夫議会議長、沓掛計三総務建設産業委員長、片田幸男産業振興課観光課長の5名により、滞りなく行われました。また、長年応援して下さった昆虫館の大切な仲間の皆さま15名余のご列席を戴きました。セレモニー終了後は2階の講義室にて和やかなお茶会をし、12年間を振り返りながらゆっくり過ごしました。また長い間応援下さった関係各位よりお祝いとお励ましのお便りをいただきました。本当にありがとうございました。

(4.19 春一番、庭のヒメギフ蝶羽化)

4月20日～5月31日

「チョウと森の仲間たち展」開催

賛助出品▶チョウ類保全協会より環境保全のパネル7枚を展示。日本のチョウの行方を追う。

日本チョウ類保全協会では、絶滅を危惧されている種の調査研究を重ね、随時の会合や調査会をされている。

蝶の写真▶向川靖彦・田島茂・高崎明・鈴木繁男・小野沢親／鳥の写真▶橋詰栄一・高嶋今朝雄

蝶のビデオ▶成沢和昭／トンボの写真▶堀 修／狐の写真▶竹沢 学／カモシカ・フクロウの写真▶竹沢文夫／オオムラサキ・ゼフィルスのオブジェ▶児島雄二／蝶の切り絵▶長岡泰平／蝶の木彫▶加納貴弘／竹材のカマキリ・カブトムシ▶安東邦英／蝶のパッチワーク、タペストリー▶小野沢真由美／蝶のグッズ帽子など▶西山智美（敬称略）

5月5日（祝）.....

フォルクローレ演奏会

ベルデオスクエロ・イ・ブランコ

やわらかな春風がそよぐ中、ケーナ、チャランゴ、

ボンボ・ギター・サンポーニャ・唄声が森に響き、小鳥のさえずりが呼応する。お客様は青木村56名、上田市23名、長野市14名、さいたま市5名、東御市4名、坂城町2名、塩尻市2名、安曇野市1名、群馬1名。メンバーのうえむら一彦様・堀みゆき様・白沢理一様、いつも有難う♪

5月

独鈷山風穴の蚕種取り出し参加～

独鈷山風穴に入れた蚕種取り出しに行く（地球を楽しむ会）とのことで宮入さん夫妻と参加し風穴卵の一部を頂いてくる。6月から段階的に孵化する様子を観察。蚕の葉を食べながら大きくなっていく姿は、来館者の皆さんも目を見張る。のちに繭から座繰機で糸取り体験会を実施。埼玉、東信地方のご夫妻他 ヒメギフ食草ウスバサイシンご持参植えてくださる。

蔵書整理・標本数、種類特定の上、リスト作りを始める。上田の金勝先生より2齢蚕を戴く。（風穴種はまだ孵化せず）青木小4年、当館見学のち手作りお礼のポスターを頂きロビーの掲示板に貼る。ここジストの会 山の手入れに入る。「蝶と森の仲間たち展」搬出とありがとう会。

6月

蚕飼育のセッティング、飼育開始

●マダラヤンマの会の皆さんご見学。タヌキの家族（母親1頭、子供5頭）が館建物の土台あたりの穴に巣作り。ご来館者大喜びで写真に納める。山の管理士第2回信州支部研修会が当館講義室で開催される。（ここジストの会）

●独鈷山風穴種6日孵化。10日に初餌、飼育開始。風穴種、半分を希望者に寄贈（世田谷区田中さん・のちに飼育の感想文を頂く）。風穴とは養蚕業全盛時代、蚕種（卵）を貯蔵しておくための自然を利用した冷蔵施設。その多くは里山の標高の高い岩場に在り、隙間から流れてくる冷風を貯めるよ

うに石で積み、屋根を覆い保存していた場所。

6月 村長さん、「信州青木村お蚕さまプロジェクト」 を立ち上げる

村では児童センター・特別養護老人施設らぼーと・当館と3ヵ所で養蚕を体験するプロジェクトを立ちあげる。らぼーとの高齢者の皆さんは若い時代の養蚕の日々を思い出し、とても懐かしみ活性化したとのこと。児童センターでは先生方と子供たちが夢中で蚕の日々を送り、生きものとともに過ごす大変さと嬉しさを体験されていた。当館でも今年は風穴で一冬過ごした蚕種の初飼育という体験をした。時折ヒヨドリが庭のエノキ林に来ている。壁の上部にいたヒオドシチョウのサナギを食べ尽す。オオムラサキ幼虫が心配。蚕は家の中でぬくぬく文字通り「家蚕」。

7月 座繰り体験:蚕の繭を蒸す・煮る・座繰り体験会

繊細な糸を引くのは緊張します。前年は手作業で巻き取っていました。お道具は歯車まで木で作られており、お道具立てに感嘆。後日の会で参加した東京の東海中学校7年1組(えいっ子村ホームステイの皆さん)の子供たちも初体験に興じ、金勝先生より熱糸した綺麗な糸を子供たちにと頂く。早速、恐縮ですと担任の先生よりお礼の電話を戴き先生にお



児童センターの皆さんの座繰り体験

伝えする。

らぼーと・児童センター・当館・村役場に燃糸された美しい糸が展示され、多くの方に驚嘆されている。庭の小さなエノキ林から蝶の幼虫や蛹たちがすべて消えた!! オオムラサキもテングもヒオドシも・・・あのヒヨドリにやられた。

小川原先生のハチ講座「ハチに刺されないために」

年に一度ドクターのお話を聴いておくとハチに刺されない! ということで毎年継続。

先生も一生懸命講演して下さい、会場で唄の丸川尚子さんと、ピアノのコロナ知子さんの演奏を聴きながら、皆さん和やかに過ごされ先生とも歓談されました。



丸川尚子さん 先生 コロナ知子さん

8月 座繰り体験会

児童センターの子らと中国の子供たち約100名参加。金勝先生には座繰り機をお借りしながら終日ご指導頂く。また、上田蘭友会の小駒晴美さんにも座繰り機をお借りする。らぼーと、児童センターから預かった繭と当館の繭をあらかじめ蒸しておき、座繰り機2台にセット。大勢の子供たち、中国からのお客様も座繰り機を回して大喜びでした。村の蚕姫堀内



加奈子さん、宮入ご夫妻様他お手伝い頂きました。
手繰りでの糸巻体験会も庭先で。

★恒例夜間昆虫観察会 何回やっても飽きる ことのない楽しい虫たちとの集い★



信州大学繊維学部で作ってくださったポスター

いつもの仲間がやってきて、新しい仲間もやって来て、虫も沢山やって来てワクワドキドキの虫たちとの会合。和やかな真夏の夜の夢。
☆信州大学繊維学部学祭に森川教授の教室で、当館のブースを作る。のちに信州大学と青木村は提携協定を結びました。

繊維学部の皆さま、今後ともよろしくお願ひします。

—「夏の青木村大人のワンダーランド」の依頼で実施しました—

◆ゼーベック発電装置による木材を使った発電実験

「地球を楽しむ会」会長の林一六先生が、森林が産みだす材木を利用した野外ストーブで薪を燃やし、その上にゼーベック発電装置を置いて下から熱し、上部を水道水で流して冷やすことで、温度差で電気を作るといふことの一部始終を当館庭先で見学できました。森に囲まれた当館の電気がこの森の木で発電出来たら！！

◆ペーパークラフトの蝶ワークショップ

切り絵の青年、長岡泰平さんが講師になって蝶やカブトムシ、カミキリムなどを作る。黙々じっくり、静寂な時間が流れ見事な作品が次々と・・・彼の作品は、当館ホームページの掲示板で沢山見られます。解説の見事さには脱帽！

◆トンボ・鳥の講演会

堀 修さん（トンボ）と高島今朝美さん（鳥）が

撮影された写真を観ながら、お話しを聴く。楽しくも忍耐強いエピソード満載。生きものたちとの付き合いに聴衆も感心されていました。

◆ロビーコンサート▶ベルデオスクロー・イ・ブランコと村の穴戸バンドが熱演♪



穴戸バンドコンサートの様子

8月27日.....

第3回全国風穴サミットin信州上田参加

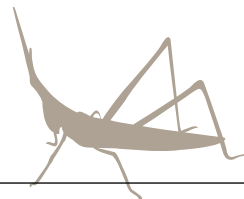
当館では、4年前に村松風穴の見学会をしており、最盛期の時代に想いを馳せ実際に蚕を飼ってみようと3年前から春蚕を飼育してきましたが、サミットで「風穴」環境（気温・地質・歴史）など研究している大学や全国の研究会から200名以上集結。時代の中でいかに蚕が重要な役割をしていたか、若い世代に提供できるものがあればと。

9月.....

マダラヤンマ観察会参加

上田市の塩田・富士山地区の皆様による市の天然記念物「マダラヤンマ」観察会が開かれ、マダラヤンマ保護研究会からお知らせを戴き表敬訪問。

当館のビデオ撮影を下さっているサポーター成沢さん、長年の動画撮影をまとめたDVD「信濃の蝶」ご寄贈下さる。



10月1日～11月30日

深まる秋のふたつの展覧会

「増える変わる生態系展」信濃毎日新聞社編集委員 増田今雄さん。(1949生まれ 長野市在住) 以前「希少種はいま」展を開催しており、県内の増減する動植物を見つめる。

「神話と星座と虫の名と展」蝶愛好家 新部公亮さん (1952年生まれ 日光市在住) 神話や文学の中に出てくる蝶や甲虫などを独自の発想で制作し、全国各地で展覧会を開催されている。

★恒例夜間昆虫観察会

いつもの田下先生、福本先生らと共に楽しい夜の観察会。十観山にはどれくらいの蛾類が居るのか…。夏秋の定点観測は続きます。

11月5日

「神話と星座と虫の名と」展ギャラリートーク 新部公亮さん

ギリシャ神話などに出てくる神々の名がチョウ(ヘレナ・ダイアナ等)やカブトムシ(ヘラクレス・ゴイアラス等)の学名になっていると、新部さん。



強くて大きなヘラクレスの名は蛾にも星座にも！

4日5日

村の文化祭に初めて参加、昆虫画家山田靖さんの作品を出品する。

村営ほやほやの当館の紹介も兼ねて、山口県岩国市の昆虫画家山田靖さんの作品を展示。凄い！と観て下さった皆さんが多く、是非また昆虫資料館内の常設山田靖ギャラリーに！！

13日

「増える変わる生態系」展 ギャラリートーク

県内の動植物の変化は、そのまま人間の問題。温暖化による生態系の変化が目立ちますが、なぜ温暖化が問題なのか、この時代、人間に何が出来るのかについて皆なで考える。村のハーモニカ、童謡唱歌の会の皆さんによる演奏で和やかに過ごす。演奏の皆さん、ありがとうございました。



お話しする増田今雄さんと会場風景



宮原弘子先生とハーモニカクラブの皆さん。
会場が狭く歌の方は観客席で歌って下さいました

12月4日.....

夏秋の枯草でたき火

焼き芋大会とありがとう会

ここジストの会(山のピオトープ作り・ボランティアグループ・館友)で刈り取った草木を燃やして、楽しい焼き芋大会。道の駅で購入した極上のサツマイモはホクホク。持ち寄りでご馳走も並び、小春日和の和やかな一日が過ぎました。春から大変お疲れさまでした。



青木村、上田、小諸、長野、須坂から助っ人参上!

12月.....

チョウ類保全協会の講演会・展覧会に毎年参加していますが、今年は館員大川心一さんが定点観測してきた「スジボソヤマキの一生」を出品。

●青木村村松風穴に、昆虫館で生まれた卵を保存に行く。村の自然を守る会の皆さん、上田の地球を楽しむ会から参加がありました。



先人の知恵に驚嘆しながら、蚕種(卵)をどう保存するか知恵を絞る

●昆虫画家山田靖さんの故郷(山口県岩国市)から、2016年版ひよじニュースが届く。息子さんの継信さんが編集長!

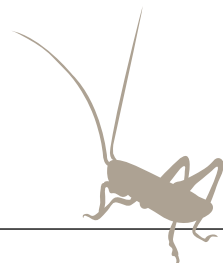


地域の話が面白く載せられて楽しいひよじニュース

冬期間☆1月～3月.....

鳩山邦夫さんの追悼展に向けて関係各位の話し合いや準備に勤しむ。☆青木村と信州大学繊維学部が協力提携を結び、参列。☆岩国の南沢多賀男氏から、山田靖さんの昆虫画や民俗画で作った「DVD紙芝居」が届く。どこか似ている岩国周東町と青木の里山。

★4月から11月の開館期間中、ここジストの会では森の小さな場所で、手刈りに依る草刈りや整備をしています。少人数ですが、自然の状態で発生する植物にどんな蝶や虫が卵を産み成虫になっているかという息の長い観測と手入れです。その生息マップを作り、分かり易い森の説明ができれば素晴らしいこと。長い目で応援を頂けますよう。ご参加を募っています。



★村の自然を守る会（会長・沓掛忠人さん）では、村内の特定外来植物（アレチウリ・オオキンケイギクなど）の駆除防除や、河川の手入れ、森の手入れと多彩な活動をされており、国蝶オオムラサキやホタルが舞う里のために調査保護し育てるなど、大切なお仕事をされています。村内のさまざまを教えてください。

★3月お彼岸も過ぎた頃、京都大学で蝶の遺伝子の研鑽を積まれていた中浜君から「博士号が取れました！ 春からは東京です」とお便りが来ました。若く気持ちのいい青年は、これからどう飛翔していくのかと楽しみです。

編集後記

2003年夏、小川原先生の書籍整理を依頼され青木村を尋ねてから随分と長い時間が流れました。書籍整理は新設信州昆虫資料館に納めるための作業だったことは後に知らされ、ついにそのまま森と館の番人ようになってまいりました。

夢か現か悲喜もごもの時間が流れ、自ずとそこに存在するものたち（人が故意に作ったものではない）と共に明け暮れてまいりました。獣も花も木も、虫も鳥も風も然り然り。

愛すべき美しい存在が、人間の在りようを映しだすように増えたり減ったり抹消されたり。人間の言葉を持たぬ彼ら彼女らの生命が一うねりよじれるさま—を見ることも、聴くことも日々にならざるを得ません。

息詰まっていく地球、ゴミだらけの宇宙空間を白内障の始まった目で見上げながら、もう少し右左の脳がバランスよく機能してくれたなら、何かといい案も浮かぶのだろうか？ とため息ひとつ。村に移住して豆を蒔き味噌を作る若い母は、赤子を背負い慣れぬ道具を手にニコッと笑って見せる。これを「希望」と言わず何を語るだろうと感じるこの頃。

虫たちと人間の生死のサイクルや時間軸の違いは

有れども、多種多様な生命の生存を許されているうちに、私たち人間がやるべきことというものがありそうです。

「舞姫よ 永遠に！」のタイトルに心が動き、追悼展への想いが深まり、歩き始めてから半年が流れました。現在は追悼展への旅の真最中というところです。どうぞ蝶を愛し、ご夫人、ご家族さま、日本を、地球を愛し続けたまま、彼の岸に舞い上がっていった鳩山邦夫さんの世界にお出かけください。

(3.30・野原)



手乗り蚕蛾（当館にて）



発行 信州昆虫資料館 2017.4.15

〒 386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢 1875-6

TEL 0268-37-3988 FAX 0268-37-3964

E-mail:kontyu-s@helen.ocn.ne.jp

印刷 中澤印刷株式会社